



ここの土地は肥えており、水もとても美味しいので質の良い作物が採れます。
ですが、ほとんどの土地を持て余している状態です。



それは勿体ないですね。

福山は辺りを見て回った後、厳蔵の家に戻った。
厳蔵の家でお茶をご馳走になりながら、再び話を始める。



ところで、厳蔵さんは本当に若者がたくさん住むことを歓迎しておられますか？



住むのであれば大歓迎ですね。



もし村の人が皆同じ考えであれば、解決策はいくらでもあると思います。



本当ですか？
良いアイデアがあれば、是非教えてください。
この村のみんなをまとめることはいつでも出来ますので。

Chapter 02: プラン提案

福山はひとしきり話をした後、厳蔵の家を出た。
その足で市長のところへ向かい、アイデアを伝えた。
市長は即決でそのプランを進めて欲しいと言い、
急遽、具体的な限界集落対策プロジェクトが発足することとなった。

福山はホテルへ戻り、徹夜で自分のアイデアをまとめた。
そして翌日、大和の携帯電話へ連絡し、再び厳蔵の家へ向かったのだった。



厳蔵さん、大和くん、昨日は色々ありがとうございました。
あれからアイデアをまとめて知人に伝えたところ、
是非そのプランを進めて欲しいと言われましてね。
今日は、その件のご相談で来ました。



プランを進めて欲しいと言われた・・・。
ちなみに、その知人と言うのはどなたですか？



ここの市長です。



市長ですか！
市長も納得したプランであれば、予算もつくのでしょうな。



いいえ、市からの予算は全く考えていません。



なんと・・・。